

総会報告

第10回定時総会報告

日 時：令和2年3月19日(木)13時00分～14時30分
 会 場：日本ロボット学会事務局（東京都文京区本郷2-19-7-2F）
 出席代議員数：58名（内委任状35名）
 （代議員数総数：59名，総会成立の定数30名以上）

議 案：

- | | |
|---------------|---------|
| (1) 令和元年度事業報告 | 【第1号議案】 |
| (2) 令和元年度決算報告 | 【第2号議案】 |
| (3) 令和2年度事業計画 | 【報告資料1】 |
| (4) 令和2年度予算計画 | 【報告資料2】 |
| (5) 令和2年度役員の内 | 【第3号議案】 |

議 事：

午後1時00分，定款第15号に基づき浅田 稔会長が議長となり，出席者が定款17条に定める定足数に達しているとの旨報告の上，第10回定時総会の開会を宣した。

次いで，以下の各議案について提案および詳細な説明があり，逐次審議を行った結果，いずれも原案どおり異議なく可決された。

各議案の内容は以下のとおり。

【第1号議案】

令和元年度 事業報告

（自 平成31年1月1日 至 令和元年12月31日）

I. シンポジウム（継続事業1）[担当：事業理事/学術講演会理事]

1. ロボット教育セミナー

- (1) 久重からくり講演と文字書き人形実演 ロボット教育セミナー（からくり工作）
 期 日：2019年3月23日(土)，24日(日) 東芝未来科学館
 対 象：小学生 参加無料
 講 師：NPO法人久留米からくり振興会，久留米市教育委員会
 内 容：からくり人形の実演を交えた解説，参加者によるからくりロボットの製作
 参加者：各回20名，合計80名
- (2) からくり工作教室2019 in 横浜
 期 日：2019年8月10日(日) 三菱みなとみらい技術館
 対 象：小学生 参加無料
 内 容：様々なロボットの实演，参加者によるからくりロボットの製作
 参加者：各回40名，合計80名
- (3) からくり工作教室2019 in 川崎
 期 日：2019年8月17日(土) 東芝未来科学館
 対 象：小学生 参加無料
 内 容：からくり人形の実演を交えた解説，参加者によるからくりロボットの製作
 参加者：20名

2. 学術講演会オープンフォーラム

第37回学術講演会（早稲田大学 早稲田キャンパス，2019年9月3日～7日）にて，下記のオープンフォーラム（無料・一般公開）を開催した。

- ・稲見 ERATO 自在化身体プロジェクト/科研費新学術領域ソフトロボティクス
- ・2020年 World Robot Summitは何を競うのか？
- ・フィールドロボットの社会実装に向けた環境基盤整備とロボット政策の動向
- ・求むロボット研究者！ 再生医療とリハビリにロボット技術がなぜ必要？
- ・合業—ロボットと人間が助け合う未来の生産システムを目指して
- ・日本のものづくりの将来を担うロボットシステムインテグレータの役割とその育成

- ・廃炉に向けた日本原子力学会との連携と課題5/このロボットがすごい2019
- ・MATLAB®/Simulink®による自律ロボットシステム開発セミナー
- ・ロボットテクノロジーが迫る生物ナビゲーションの謎/最新ロボット大集合!?
- ・ロボティクススタートアップ会議 ～ロボットベンチャーの成功を考える～
- ・NEDO「次世代人工知能・ロボット中核技術開発」企画オープンフォーラム
- ・月縦孔・地下空洞の探査と空洞内での基地建設に向けたロボット・アバター技術に関するワークショップ
- ・からくり工作教室 in 早稲田大学/ビジュアルプログラミングで自分だけのロボットを動かそう！
- ・くるくる回るベアリングで遊ぼう！

3. インターナショナルロボットハイスクール2019 (IRH2019)

期 日：2019年12月21日(土)，22日(日) 国際ロボット展 (iREX2019) 会期内

会 場：東京ビッグサイト，iREX2019会場内およびTFTビル
 内 容：国内外の高校生を対象とし，参加者はiREX2019の展示の調査・研究を通じて，最前線の技術に触れるとともに，その研究成果を発表する。

参加者数：6校，56名（国内4校，23名，国外：2校，33名）

4. 2019国際ロボット展ブース出展

期 日：12月18日(水)～21日(土)

会 場：東京ビッグサイト

内 容：2019国際ロボット展にブース出展を行い，日本ロボット学会の活動紹介を行った。

来客数：250名

II. 学会誌（継続事業2）[担当：学会誌理事]（定款第4条2号）

学会誌第37巻1号～10号を発行し，会員に配布した。各号の特集テーマは次のとおりである。

- | | |
|---------|-------------------------|
| 第37巻1号 | ソフトロボティクス |
| 第37巻2号 | 多脚生物の歩容とロボットによる実現 |
| 第37巻3号 | World Robot Summit 2018 |
| 第37巻4号 | 人間機械協調系 |
| 第37巻5号 | 触覚センサの要素技術・応用技術 |
| 第37巻6号 | 食品マニピュレーションのためのロボット技術 |
| 第37巻7号 | 衛星測位とロボティクス |
| 第37巻8号 | 産業用ロボットのIoT化 |
| 第37巻9号 | ImPACT タフ・ロボティクス・チャレンジ |
| 第37巻10号 | 人手不足に効く協働ロボット・自動化システム |

今年度の第37巻より，学会誌のサイズやレイアウトを刷新するとともに，親しみやすい副題を設けるなど，大幅な改革を実施した。まず，会誌サイズについては，従来の変形A4版から通常A4版に変更を行った。これにより，論文1ページあたりの文字数の増量（一方で投稿論文のページ単価は据え置いているため，実質的な投稿料金の値下げ），PDFから（通常のA4用紙に）印刷した際のレイアウトの改善などを図った。また，巻頭にカラーページを設けて特集内の特徴的な図・写真などをカラーで紹介する構成とした。さらに，会誌内のページ順序についても見直しを行い，従来，冒頭部分に配置されていた会告記事を，一部を除いて巻末に移動し，冒頭から特集記事が始まる構成とした。

学会員のみならず幅広い読者にアピールすることをめざし，より親しみやすい副題として「ロボ学」を定め，これを表紙に大きく表示することとした。ただし，「ロボ学」はあくまでも副題であり，正式名称は従来どおり「日本ロボット学会誌」である。文献の引用時には，「日本ロボット学会誌」として正しく引用されるよう，メールや会告にて案内した。また，9月からはWeb版の「ロボ学」も立ち上がっており，今度は，Web版ロボ学との連携を強めていくことを計画している。

一般投稿論文については，上記の会誌サイズ変更に伴い，論文フォーマットが通常のA4版となった。また，論文のオープンアクセス化を進め，掲載と同時にJ-stageで自由にアクセスできるようにした（従来は，掲載1年後から一般公開）。年間の論文投稿件数は44件（2018

年度 39 件, 2017 年度 44 件), 判定結果は採録可 63% (2018, 2017 年度 45%) であった。論文投稿数は近年大きく減少し続けてきたが, 最近では年間 40 本前後で安定しつつある。判定までの期間は平均 139 日 (2018 年度 163 日), 最短 19 日, 最長 334 日で, 掲載までの期間は平均 250 日 (2018 年度 331 日) であった。なお, 評価項目の割合は, 新規性 29% (2018 年度 10%), 有用性 52% (同 70%), 提案性 19% (同 20%) となっている。

従来 7 号もしくは 8 号で実施してきた学術講演会論文特集については, 近年の投稿数減少を鑑みて, 第 37 巻より廃止した。一方で, 優れた研究の掘り起こしのためにも学術講演会参加者への呼びかけは重要であるという認識から, 学術講演会の優秀講演に対する論文投稿の呼びかけは, 英文誌 Advanced Robotics と共同で従来どおりに実施している。加えて, 本年度は第 24 回ロボティクスシンポジウムと連携し, 本会誌への論文同時投稿を受け付けた。

9 月の学術講演会においては, 若手会員に対して論文投稿をエンカレッジすることを目的として, 例年どおり, 企業の協賛によるランチョンセミナー「論文投稿の勧め」を開催した。英文誌と共同で論文投稿・査読の仕組みを解説するとともに, 新しい試みとして「みんなで模擬査読」を実施し, 良い論文の書き方について会場全体で議論を行った。

最後に, 広告の年度集計結果に関しては, 件数は 60 件 (2018 年度 51 件), 金額は 6,152,462 円 (2018 年度 6,266,592 円) であり, 年間目標金額 400 万円に対して 1.5 倍となり目標を大きく上回った。

III. 欧文誌 (継続事業 3) [担当: 欧文誌理事] (定款第 4 条 2 号)

Editor in Chief を細田耕教授 (大阪大学) が担当し, Advanced Robotics の安定した発展を維持させつつ, 時流に即した新しい取り組みを行っている。

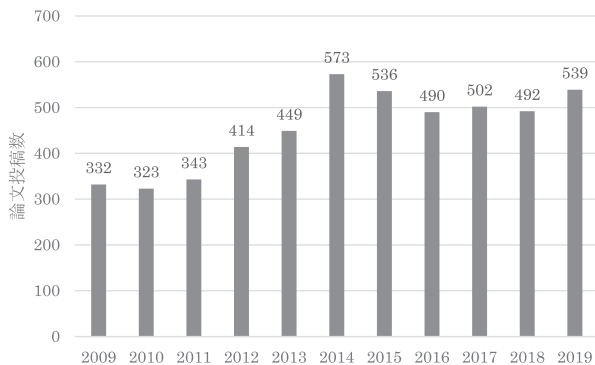
1. 欧文誌 (Advanced Robotics) 編集・発行

Vol.33 を発行した。各号の詳細は以下のとおりである。

33/1	2019	Jan	Regular Issue (4 papers)
33/2		Jan	Regular Issue (3 papers)
33/3-4		Feb	System Science of Bio-navigation (7 papers)
33/5		Mar	Cyborg and Bionic Systems (5 papers)
33/6		Mar	Regular Issue (3 papers)
33/7-8		Apr	Robot and Human Interactive Communication (1) (10 papers)
33/9		May	Regular Issue (3 papers)
33/10		May	Regular Issue (3 papers)
33/11		Jun	Machine Learning Methods for High-Level Cognitive Capabilities in Robotics (2 papers)
33/12		Jun	Regular Issue (4 papers)
33/13		Jul	Robot Vision for Dexterous Manipulation and Interaction (3 papers)
33/14		Jul	Regular Issue (3 papers)
33/15-16		Aug	Robot and Human Interactive Communication (2) (9 papers)
33/17		Sep	Real World Application (3 papers)
33/18		Sep	Regular Issue (4 papers)
33/19		Oct	Regular Issue (5 papers)
33/20		Oct	Regular Issue (5 papers)
33/21		Nov	Regular Issue (4 papers)
33/22		Nov	Artificial Intelligence and Machine Learning for Robotic Manipulation (3 papers)
33/23		Dec	Regular Issue (4 papers)
33/24		Dec	Regular Issue (3 papers)

2. 論文の投稿, 査読の状況

2019 年における年間論文投稿総数は 539 件 (新規投稿論文・380 件, 再投稿論文・159 件) であった (下表参照)。投稿論文の採択率は, 28.76% であった。近年, Editor リジェクトを積極的に実施することで,



質の高い論文のみを査読者に回すような取り組みを行っているが, 論文投稿総数は 500 件程度で安定している状況である。

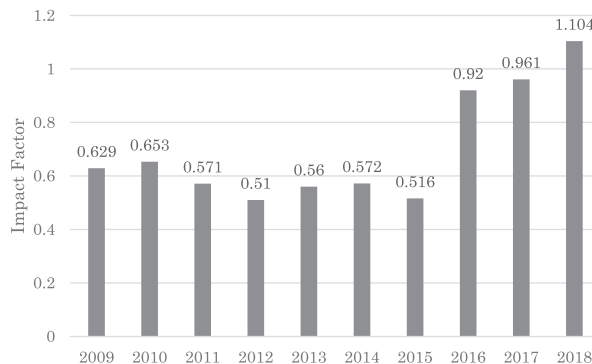
なお, 2019 年度の投稿から第 1 回目のディシジョンまでの期間は平均で 62.18 日であった (2018 年度は 76.03 日, 2017 年度は 68.56 日, 2016 年度は 61.57 日, 2015 年度は 66.7 日)。これまで 90 日を目標にしているが, SchlorOne の導入の効果もあり目標を 5 年以上連続で達成している。また全投稿論文に対して CrossCheck™ software が活用され, 剽窃の事前チェックを行っている。

3. 企画/編集/発行作業

今年度も, 日本の優れた研究を世界に発信する特集号「Cutting Edge of Robotics in Japan」を企画し, 学術講演会論文発表者への論文投稿を呼びかける活動を行った。

4. 国際学術誌としての認知度と評価の向上

Institute for Scientific Information (ISI) 社の Citation Index (インパクトファクタ) の推移を以下に示す。2016 年にてインパクトファクタが 0.920 に大幅に上昇し, その後の継続的に上昇し 2018 年においては 1.104 と, 初めて 1.0 を上回る値を達成した。今後も Taylor & Francis 社との連携を通して, 戦略的にこれを上昇させることを検討する。昨年度より検討を行っている Review paper の増加や, また引用の多い論文数件の Open Access 化, 魅力ある特集号の企画等を実施する。



5. 共同事業者である Taylor & Francis 社との契約内容の更新・交渉

以下のような契約内容の更新を行った。

2019 年 (Vol. 33) 年間発行数: 24 号

1. 会員全員の電子購読料金 15,000 ユーロ/年
2. RSJ へ支払われる編集料 20,000 ユーロ/年
3. AR ベストペーパー賞金 1,000 ユーロ/年

2019 年度から更新された契約内容では, 編集料電子購読料金が電子購読料金より安価になったことにより, 支出から収入に転じた。さらに, AR Best Paper Award に対して 1,000 ユーロの賞金を贈呈することが可能となった。

採択された投稿論文は, 掲載号発行前に Taylor and Francis により電子出版され, 閲覧・引用が可能となっている。採択決定から電子出版までは, 早ければ 1 ヶ月以内で対応可能である。2019 年は投稿から第 1 回目のディシジョンまでの平均日数は 62.18 日である (2018 年度は 76.03 日, 2017 年度は 68.56 日, 2016 年度は 61.57 日, 2015 年度は 66.7 日)。多くの投稿論文は 2 回目の査読で採録の可否が決まるため, 投稿から最終ディシジョンまでの平均日数は 94.54 日となっている。今後も査読期間の短縮に努めていく。

IV. 調査・研究 (継続事業 4) [担当: 企画・広報理事] (定款第 4 条 3 号)

前年度から継続して, 以下の調査・研究専門委員会活動を実施した。

(1) 研究専門委員会

委員会名	委員長	発 足	種別
遊びとロボット研究専門委員会	橋本秀紀	2017 年 5 月	I 種
ロボット考学研究専門委員会	上出寛子	2017 年 4 月	I 種
ヒューマノイド・ロボティクス研究専門委員会	杉原知道	2017 年 4 月	I 種
ソフトロボティクス研究専門委員会※	新山龍馬	2017 年 4 月	II 種
開かれた知能研究専門委員会	下田真吾	2014 年 9 月	I 種
インテリジェントホームロボティクス研究専門委員会	佐野睦夫	2014 年 8 月	II 種

データ工学ロボティクス研究専門委員会	大野和則	2012年4月	I種
ネットワークを利用したロボットサービス研究専門委員会	成田雅彦	2010年3月	I種
ヒューロビント研究専門委員会	横田 諭	2009年4月	I種
ヒューマンセントリックロボティクス研究専門委員会	田原健二	2008年4月	I種
北海道ロボット技術研究専門委員会	近野 敦	2008年4月	I種
空間知能化研究専門委員会	新妻実保子	2007年1月	II種

(2) 調査研究委員会

委員会名	委員長	発 足
廃炉に向けたロボットの調査研究と社会貢献に関する調査研究委員会	吉見 卓	2015年1月
産学連携調査研究委員会	村上弘記	2013年5月
広域災害対応に関する技術基盤調査研究委員会	浅間 一	2013年1月

(3) 技術・カテゴリ別委員会

委員会名	委員長	発 足
ロボット教育事業計画委員会	琴坂信哉	2015年4月
建設ロボット委員会	栗栖正充	2013年10月

V. 表彰(継続事業5) [担当:企画・広報理事] (定款第4条4号)

2019年9月第37回学術講演会において、学会誌論文賞3件、Advanced Robotics Best Paper Award 4件、実用化技術賞2件、研究奨励賞9件、ロボティクスシンポジウム研究奨励賞3件、International Session Best Presentation Award 3件、ロボット活用社会貢献賞2件、功労賞2件の表彰を行った。2019年9月第37回学術講演会より、ロボット学の発展、振興のため優秀研究・技術賞、優秀講演賞を新設した。2020年度より贈呈を行う。ロボット学の研究を行い、学業成績が優秀な大学学部生、高等専門学校生に対して授与する「優秀学生賞」を新設した。学科に対して受賞者1人、ロボット学会正会員5名の推薦を必要とする。なお、Advanced Robotics Best Paper Award に関しては、Taylor and Francis から提案された賞金を授与した。

1. 学会誌論文賞

- (1) ARGOS チャレンジに向けたロボット開発と実証実験を兼ねた第1回コンペティション
(日本ロボット学会誌第35巻第2号, pp. 123-134)
遠藤大輔(東北大学), 幸村貴臣((株)小松製作所), 鈴木大貴(ジャパマンユニテッド(株)), 山内元貴(東北大学), 永谷圭司(東北大学), 小柳栄次((株)移動ロボット研究所)
- (2) ヒューマノイドの構造可変性を陽に考慮した粘弾性分配制御
(日本ロボット学会誌第35巻第2号, pp. 160-169)
山本 江(東京大学)
- (3) 重心の実行可能領域を利用した粗密段階計算に基づく軌道計画法によるヒューマノイドロボットのはしご昇降と乗り移り動作の実現
(日本ロボット学会誌第36巻第1号, pp. 66-77)
野沢峻一(東京大学), 金澤雅夫(本田技術研究所), 垣内洋平(東京大学), 金本良樹(本田技術研究所), 黒田貢秀(本田技術研究所), 岡田 慧(東京大学), 吉池孝英(本田技術研究所), 稲葉雅幸(東京大学)

2. Advanced Robotics Best Paper Award

- (1) ANYmal-toward legged robots for harsh environments
(Advanced Robotics Vol. 31 No. 17, pp. 918-931)
Marco Hutter (Robotic Systems Lab, ETH Zurich), Christian Gehring (Robotic Systems Lab, ETH Zurich), Andreas Lauber (Robotic Systems Lab, ETH Zurich), F. Gunther (Robotic Systems Lab, ETH Zurich), C. Dario Bellicos (Robotic Systems Lab, ETH Zurich), Vassilios Tsounis (Robotic Systems Lab, ETH Zurich), Peter Fankhauser (Robotic Systems Lab, ETH Zurich), Remo Diethelm (Robotic Systems Lab, ETH Zurich), Samuel Bachmann (Robotic Systems Lab, ETH Zurich), Michael Bloesch (Robotic Systems Lab, ETH Zurich), Hendrik Kolvenbach (Robotic Systems Lab, ETH Zurich), Marko Bjelonic (Robotic Systems Lab, ETH Zurich), Linus Isler

(Robotic Systems Lab, ETH Zurich), Konrad Meyer (Robotic Systems Lab, ETH Zurich)

- (2) Dynamic motion learning for multi-DOF flexible-joint robots using active-passive motor babbling through deep learning
(Advanced Robotics Vol. 31 No. 18, pp. 1002-1015)
Kuniyuki Takahashi (Waseda University), Tetsuya Ogata (Waseda University), Jun Nakanishi (Nagoya University), Gordon Cheng (Technical University of Munich), Shigeki Sugano (Waseda University)
- (3) Probabilistic movement primitives under unknown system dynamics
(Advanced Robotics Vol. 32 No. 6, pp. 297-310)
Alexandros Paraschos (TU Darmstadt), Elmar Rueckert (TU Darmstadt), Jan Peters (TU Darmstadt, Max Planck Institute for Intelligent Systems), Gerhard Neumann (University of Lincoln)
- (4) SkinGest: artificial skin for gesture recognition via filmy stretchable strain sensors
(Advanced Robotics Vol. 32 No. 21, pp. 1112-1121)
Ling Li (Shanghai Jiao tong University), Shuo Jiang (Shanghai Jiao Tong University), Peter B. Shull (Shanghai Jiao Tong University), Guoying Gu (Shanghai Jiao Tong University), Maxime Thieffry (University of Lille and CNRS), Mario Sanz-Lopez (University of Lille and CNRS), Bruno Carrez (University of Lille and CNRS), Damien Marchal (University of Lille and CNRS), Olivier Goury (University of Lille and CNRS), Jeremie Dequidt (University of Lille and CNRS), Christian Duriez (University of Lille and CNRS)

3. 実用化技術賞

- (1) 災害対応のためのバックホウ向け遠隔操縦装置「ロボ QS」
山崎峻一((株)IHI), 堀 裕彰((株)IHI), 川上勝彦((株)フジタ), 平野高嗣((株)フジタ), 原 堅次(国土交通省九州地方整備局九州技術事務所), 橋住伸一郎(国土交通省九州地方整備局九州技術事務所)
- (2) 小惑星探査ローバ「ミネルバ2」の開発
吉光徹雄(宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所), 久保田孝(宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所)

4. 研究奨励賞

- (1) 大槻健史郎(早稲田大学)
分離沈降抑制型磁気粘弾性流体の試製とMRダンパー機構への実装および評価
第36回学術講演会/3P2-02
- (2) 清水杜織(東北大学)
1次元柔剛切替メカニズムを活用したトラスグリッパ機構—線状ジャミング転移機構を基軸とした構造例—
第36回学術講演会/3K1-01
- (3) 高橋城志(Preferred Networks)
実世界での話し言葉指示による物体移動: 深層学習による画像・言語理解
第36回学術講演会/1E3-02
Deep visuo-tactile learning: 画像からの物体特性の推定
第36回学術講演会/2E1-02
- (4) 野田晋太郎(東京大学)
準受動歩行と能動歩行が一台で可能なロボット開発と制御
第36回学術講演会/1J1-04
- (5) 坂東直昭(産業技術総合研究所)
半教師ありロボasts非負値テンソル分解による柔軟索状レスキューロボットの音声強調
第36回学術講演会/2J2-06
- (6) 東出泰治(東京大学)
車輪移動双腕ロボットによる店舗環境における整列操作のための物体認識
第36回学術講演会/3J3-02
- (7) 村上健太(パナソニック)
ワイヤ型歩行アシストスーツにおける股関節屈曲支援による歩容変化
第36回学術講演会/3B2-03
- (8) 山田大輔(キヤノン)

深層学習を用いた吸着位置推定と吸着動作計画手法によるビニール梱包柔軟物のピッキング
第36回学術講演会／2E1-05

- (9) 渡辺将広 (東北大学)
加圧すると“縮む”ペローズ機構
第36回学術講演会／3K3-04
5. ロボティクスシンポジウム研究奨励賞
- (1) 大野真澄 (東京工業大学)
駆動トルク測定に基づくパラレルロボットにおける過大な対偶すき間の検出のための軌道設計
第24回ロボティクスシンポジウム／2A3
- (2) 岡部弘佑 (和歌山工業高等専門学校)
冗長マニピュレータの手先 一冗長運動間干渉による動的可操作性多面体並進に関する詳細な解析
第24回ロボティクスシンポジウム／4A1
- (3) 水野直希 (東北大学 (現：三菱重工業))
石油化学コンビナートで活動する消防ロボットへの Conjugate Gradient Descent スムーザの適用
第24回ロボティクスシンポジウム／1A2
6. International Session Best Presentation Award
- (1) Peizheng Yuan (Tokyo Institute of Technology)
Soft Pneumatic Helical Actuator with High Contraction Ratio
37th RSJ2019
- (2) Leyuan Sun (University of Tsukuba, AIST)
Robust SLAM in Dynamic Environment based on Object's Mask
37th RSJ2019
- (3) Andres Osorio (Tokyo Institute of Technology)
A novel scalable SMA actuator using thermally conductive fluid
37th RSJ2019
7. ロボット活用社会貢献賞
- (1) 福島第一原子力発電所廃止措置における格納容器内部調査作業への貢献
東芝エネルギーシステムズ株式会社, 東京電力ホールディングス株式会社, 技術研究組合国際廃炉研究機構
- (2) 飛行ロボットの研究開発とそれらを利用した災害対応活動への貢献
株式会社自律制御システム研究所
8. 功労賞
- (1) ロボット工学セミナー「ロボットの作り方」の改革
富沢哲雄 (防衛大学校), 城間直司 (茨城大学)
- (2) Ro-MAN の運営に対する貢献
小林尚登 (法政大学)

VI. 国際 (継続事業 6) [担当：国際理事] (定款第4条5号)

1. 国際委員会活動
国際委員会は、日本のロボット研究の国際的優位性を基盤にしてRSJの国際的な存在感と地位を確立することを目的とし、このための戦略を策定し実施するための委員会として活動している。今年度もこれまでの活動を継続し、
- ・国内の外国人研究者向けの研究発表の機会提供サービス、
 - ・国際会議を通しての学会の国際化に向けた取り組み、
 - ・Pacific-Asia Robotics Society Union (PARSU) をベースとしたアジア圏でのロボット系学会間の協調体制の活性化
- の三つを柱に活動を行った。
2. 第37回日本ロボット学会学術講演会における国際セッションの実施
9月3日～7日に早稲田大学にて開催された第37回日本ロボット学会学術講演会において、例年どおりセッションの司会、発表、質疑応答のすべてが英語で行われる「国際セッション」を設けた。発表者には日本に滞在する留学生・研究者が多く含まれ、日本ロボット学会がこのような外国人に研究発表の機会を提供することは、外国人会員に対する有益なサービスであるとともに、日本ロボット学会を外国の人々に知ってもらうための貴重な機会である。また日本の若手研究者にとって、国際学会で発表する前の練習としても利用されており、こうした場を提供する意義は大きい。
今年度の第37回日本ロボット学会学術講演会においては、以下の三

つのトピックについて四つの時間帯 (スロット) での発表が行われた。

- ・IS1(9/4) : Robotics x AI 12件
 - ・IS2(9/4) : Social Robotics and Human-Robot Interaction 8件
 - ・IS3(9/5) : Robotics, mechatronics and control 11件
- (合計31件)

2012～2018年の論文発表件数はそれぞれ、41件、26件、27件、16件、23件、14件、19件となっている。RSJ NEWSでの宣伝や国際委員に協力を求めるといった活動が実り、例年を大きく上回る投稿数となった。国際セッションを盛り上げていくためには、国際担当理事だけでなく、国際委員にセッションを企画していただくなど、一層のテコ入れが必要と考える。また、今年度からテコ入れ策の一環として、国際セッションでの優秀な発表を対象にした賞 (International Session Best Presentation Award) を設置し、1件の授賞と、2件Finalistの授賞を行った。

3. 国際交流活動

IROS 2019 会期中に開催された The 14th Pacific-Asia Robotics Society Union Summit Meeting に参加した。これはアジア+オセアニアのロボット系学会の会長が年に1度集まって情報交換する場である。
日 時：2019年11月6日 12:00-13:30 (IROS 2019 期間中)
場 所：Venetian Macau, Room LG-R22 (IROS 2019 会場)
ホストソサエティ：CAA (中国)

参 加 者：

- ・ARAA (Australian Robotics and Automation Association, Australia and New Zealand)
—Prof. Stefan Williams (ex-president of ARAA)
- ・CAA (Chinese Association of Automation, China) : Host Society
—Prof. Wewxue Wang (Representative of CAA)
- ・KROS (Korea Robotics Society, Korea)
—Prof. Byung-Ju Y (President of KROS)
—Prof. Bum-Jae You (Vice President of KROS)
—Ms. Mira Yoon (General secretary of KROS)
- ・RSJ (Robotics Society of Japan, Japan)
—Prof. Minoru Asada (President of RSJ)
—Prof. Fumitoshi Matsuno (Vice president of RSJ)
—Dr. Hiroki Murakami (Vice president of RSJ)
—Dr. Yuji Hosoda (General secretary of RSJ)
—Prof. Tetsunari Inamura (Board member of RSJ)
—Prof. Takayuki Nagai (Board member of RSJ)
- ・RST (Robotics Society of Taiwan, Taiwan)
—Prof. Ren C. Luo (President of RST)
- ・TRS (Thai Robotics Society, Thailand)
—Prof. Tharida Maneewarn (Representative of TRS)

主な議題：

- (1) 今後のPARSUの活動方針についての確認
- (2) 新しいメンバー候補の審議 (バキスタンからの申請をヒアリングし、準備不十分としてRejectした)
- (3) 次回ホストの決定：ラスベガスでの開催、KROS (韓国) がホスト予定

4. 国際会議への対応

RSJが共催となっているRO-MANとIROSに対し、以下のような活動を行った。

- (1) 28th IEEE International Symposium on Robot and Human Interactive Communication (RO-MAN 2019)
期 間：2019年10月14日～10月18日、会 場：Le Meridien, New Delhi, インド
10月16日にステアリング会議が開催され、ロボット学会からは、副会長1名、国際担当理事2名、事務局長1名が出席し、スポンサー学会の体制や今後の開催計画などを確認した。副会長がRSJ/KROS Distinguished Interdisciplinary Research Awardの贈賞を表彰式で行った。RSJの立場からRO-MANを活性化することを目的とし、昨年に引き続いてAdvanced Robotics誌でRO-MAN特集号を企画した。現在投稿された論文の査読を進めている。
- (2) 2019 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS 2019)
期 間：2019年11月4日～11月8日、会 場：The Venetian Macao, Macau, 中国

- (a) 11月3日, IROS Advisory/Steering Committee Meeting が開催され, RSJ からは会長1名, 副会長1名, 国際担当理事1名, 事務局長1名が参加し, 今後の開催体制や開催計画などを確認した.
- Steering Committee での投票権を持つメンバーの見直しが行われた。(過去の各開催国/都市からの投票数にバラツキがないような制限を設ける)
 - 2024年のIROSがアブダビ(UAE)で開催されることが決定した.
今後も継続して, IROSでの当学会の存在感を根付かせることを目標に, Advisory / Steering Committee Meeting への継続的な参加を図ることとした.
- (b) 11月5日, 12:30-13:30に産学連携を目的としたRSJ-IAC Lunch (RSJ Lunch for Industry and Academia Collaboration)を企画開催した.
- 機器展示を行っている企業12社から申し込みがあったが, 2社は産学連携の趣旨から離れていたため, お断りし, 10社に各5分プレゼンテーションを行ってもらった.
 - 120食のLunch boxの準備を行ったが, 残念ながら完配とはならなかった. 周知の方法などの改善をして来年度も同様の企画を継続する予定.
- (c) 11月8日, 14:00-18:00にRSJ Tutorialを企画開催した. 昨年と同様のスタイルでのハンズオンチュートリアルをIROSのチュートリアル枠を利用して行った. チュートリアルの内容は, 日本発のHuman-Robot InteractionをVR上でシミュレーションするプラットフォームSIGVerseに関するものであり, 概要説明(座学), 実際にPCやVRデバイスをを用いたケーススタディ紹介, デモからなる構成で, 半日のチュートリアルとしては内容の濃いものであった. ほかのワークショップやチュートリアルなどと平行して実施されたせいもあり, 参加者数は10名ほどと若干少なかったものの, 活発な議論や質疑応答が行われた. 開催側の準備が大変な部分もあるが, こうしたツールを紹介していくことはロボット分野の活性化, 技術の底上げにつながっていくので今後も続けていきたい.

5. 国際会議共催/協賛

共催となっているRO-MANおよびIROSを含め, 本会に関連する国際会議を共催(2件), 協賛(17件), 後援(3件)した(2019年1月~12月31日審査分).

Ⅶ. 学術講演会(その他事業1)[担当:学術講演会理事](定款第4条1号)

1. 学術講演会

(1) 第37回学術講演会

期 日: 2019年9月3日(火)~7日(土)
会 場: 早稲田大学 早稲田キャンパス
実行委員長: 岩田浩康(早稲田大学)
プログラム委員長: 平田泰久(東北大学)
【発表件数: 651件(すべてオーラル)】
本年度から他分野からの発表を容易にするよう, すべての講演で会員でなくとも登壇できるように改定した.
一般セッション: 24件
オーガナイズドセッション: 29件
International Session: 3件
オープンフォーラム: 15件
ワークショップ: 6件
アトム通貨による早稲田商店街の活性化企画: 32店舗
機器展示: 51件
スポンサー企業: 17件
新技術プレスリリース: 8件
特別企画: 2件(はやぶさ2特別講演会, ガンダム Global Challenge)
特別講演 講 師: 久保田孝氏(JAXA 宇宙科学研究所)
タイトル: 「新たな挑戦, 小惑星探査機「はやぶさ2」のAI・ロボット技術」
【参加者数: 1,310名】
正会員/終身会員(事前): 425名(当日): 140名
学生会員(事前): 138名(当日): 12名

協賛後援団体一般会員(事前): 49名(当日): 23名
協賛後援団体学生会員(事前): 85名(当日): 4名
一般非会員(事前): 62名(当日): 65名
学生非会員(事前): 228名(当日): 17名
優待券利用の賛助会員(当日): 38名
優待券非利用の賛助会員(事前): 10名
展示出展企業参加他:(事前): 2名(当日): 12名

【懇親会: 419名】

一般・有料(事前): 231名(当日): 52名
学生・有料(事前): 123名(当日): 11名
同伴者(事前): 2名

Ⅷ. 講習会(その他事業2)[担当:事業理事](定款第4条1号)

1. ロボット工学セミナー

以下のとおり7件のセミナーを開催した. 本年度から遠隔配信参加者の上限を20名から50名へと変更した. 深層学習, 画像処理, 動作計画, ベイズ推定など多くの研究者・技術者が求めるテーマのセミナーを実施したところ, 参加者総数が908名(うち遠隔参加者215名)となった. 前年度から319名(うち遠隔参加者148名)の増加となり, 結果として計500万円を超える収益が得られた.

(1) 第118回セミナー「実践的に学ぶ! 深層学習を用いた自動運転・ナビゲーションの最新線」

期日: 2019年4月23日(火) 東京大学 本郷キャンパス 武田先端知ビル5F 武田ホール
講師: 森出茂樹(シンギュラーテクノロジーズ/FMIC), 櫻田健(産業技術総合研究所), 佐藤育郎(デンソーアイティラボラトリー), 荒井幸代(千葉大学), 山下倫央(北海道大学)

オーガナイザー: 香月理絵(東芝)

参加者: 175名(会員・協賛: 45名, 会員・協賛(学生): 15名, 会員外: 44名, 会員外(学生): 9名, 賛助招待: 12名, 賛助優待: 7名, 遠隔: 43名(内複数人視聴20組))

(2) 第119回セミナー「原理から学ぶロボットのための画像処理技術」

期日: 2019年5月29日(水) 東京大学 本郷キャンパス 武田先端知ビル5F 武田ホール
講師: 藤垣元治(福井大学), 橋本 学(中京大学), 原 祥亮(千葉工業大学), 山口光太(サイバーエージェント)

オーガナイザー: 荒井翔悟(東北大学)

参加者: 173名(会員・協賛: 31名, 会員・協賛(学生): 15名, 会員外: 38名, 会員外(学生): 20名, 賛助招待: 20名, 賛助優待: 9名, 遠隔: 41名(内複数人視聴20組))

(3) 第120回セミナー「ロボットのための作業・動作計画とその教示支援技術」

期日: 2019年6月27日(木) 中央大学 後楽園キャンパス 5号館3階 5336教室
講師: 原田研介(大阪大学), 山野辺夏樹(産業技術総合研究所), 長 隆之(九州工業大学), 山崎公俊(信州大学), 立花隆輝(日本アイ・ビー・エム 東京基礎研究所)

オーガナイザー: 鈴木章洋(オムロン)

参加者: 155名(会員・協賛: 31名, 会員・協賛(学生): 12名, 会員外: 36名, 会員外(学生): 6名, 賛助招待: 15名, 賛助優待: 16名, 遠隔: 39名(内複数人視聴21組))

(4) 第122回セミナー「近年のベイズ推論研究とロボット工学への応用」(予定)

期日: 2019年7月29日(月) 中央大学 後楽園キャンパス 2号館2階 2215教室
講師: 須山敦志(アクセンチュア), 持橋大地(統計数理研究所), 松原崇充(奈良先端科学技術大学院大学), 中村友昭(電気通信大学), 赤井直紀(名古屋大学)

オーガナイザー: 雨宮 智(富士通研究所)

参加者: 136名(会員・協賛: 39名, 会員・協賛(学生): 14名, 会員外: 23名, 会員外(学生): 11名, 賛助招待: 8名, 賛助優待: 7名, 遠隔: 34名(内複数人視聴15組))

(5) 第123回セミナー「ロボット工学の未解決問題 ~ロボットへの期待とその障壁~」

期日: 2019年9月26日(木) 東京大学 武田先端知ビル 武

田ホール
 講師：浅間 一（東京大学）、松尾 豊（東京大学）、梶田秀司（産
 業技術総合研究所）、野沢峻一（MUJIN）

オーガナイザー：白藤翔平（東京大学）
 参加者：193名（会員・協賛：67名、会員・協賛（学生）：17名、
 会員外：45名、会員外（学生）：5名、賛助招待：9名、
 賛助優待：11名、遠隔：45名（内複数人視聴16組））

- (6) 第121回セミナー「ロボットの作り方～ROSを使用した画像
 処理とマニピュレータ制御～」
 期日：2019年11月16日(土)～17日(日) 中央大学 後楽園キャン
 パス2号館 2215・2221号室 製図室
 講師：Geoffrey BIGGS (Tier IV), Felix von Drigalski (OMRON
 SINIC X)

オーガナイザー：長谷川孔明（豊橋技術科学大学）、高橋三郎（パ
 ナソニックアドバンスドテクノロジー）

参加者：23組44名（会員・協賛：8名、会員・協賛（学生）：1名、
 会員外：25名、会員外（学生）：3名、賛助優待：7名）

- (7) 第124回セミナー「リハビリテーション現場へのロボット技術
 の導入」
 期日：2019年11月20日(水) 藤田医科大学 大学3号館 221室
 講師：平野 哲（藤田医科大学）、嶋田宏史（トヨタ自動車）、
 竹林 崇（大阪府立大学）、阿部友和（オリジン）

オーガナイザー：山崎一徳（藤田医科大学）
 参加者：27名（会員・協賛：7名、会員・協賛（学生）：4名、
 会員外：3名、会員外（学生）：3名、賛助招待：1名、
 遠隔：9名（内複数人視聴4組））

※のべ参加者：904名
 （会員・協賛：222名、会員・協賛（学生）：78名、会員外：
 214名、会員外（学生）：57名、賛助招待：65名、賛助優待：
 57名、遠隔：211名（内複数人視聴96組））

2. 共催事業

本会に関連する国内行事（講演会、シンポジウム、講習会、展示会、
 コンテスト等）の共催・協賛・後援について審査を行った。共催10件、
 協賛93件、後援21件（2019年1月1日～12月31日審査分）。

主な国内共催事業：

- (1) 第24回ロボティクスシンポジウム（期日：2019年3月14日(木)
 ～15日(金)）
- (2) ロボカップジャパンオープン2019（2019年8月16日(金)～18
 日(日)）
- (3) 知能ロボットコンテスト・フェスティバル2019（2019年6月15
 日(土)～16日(日)）
- (4) 第19回レスキューロボットコンテスト（2019年8月10日(土)
 ～11日(日)）
- (5) つくばチャレンジ2019（2019年11月10日(日)）
- (6) 第19回建設ロボットシンポジウム（2019年10月9日(水)～10
 月11日(金)）

IX. 法人処理 [担当：庶務理事]

1. 会員状況

	令和元年12月31日 現在	平成30年12月31日 現在	増 減
名誉会員	12名	11名	1名増
正会員	2,969名	2,982名	13名減
学生会員A	354名	535名	181名減
学生会員B	469名	422名	47名増
終身会員	140名	122名	18名増
会員総数	3,944名	4,072名	128名減
賛助会員	96団体(119口)	87団体(110口)	9団体増(9口増)

2. 総会

- (1) 第9回定時総会
 会期：平成31年3月20日(水)
 会場：全水道会館
 出席代議員数：50名（うち委任状提出：37名）
 （代議員総数：59名、総会成立の定数30名以上、
 議題の可決に必要な出席代議員数40名以上）

議題：平成30年度の事業報告・決算報告、平成31年度の事業
 計画・予算計画、平成31年度役員の選任、名誉会員の選
 出、会員除名、以上について審議し、議決した。

3. 委員会

下記の委員会を開催した。

委員会名	委員長 (1月～3月)	委員長 (3月～12月)
会誌編集委員会	正宗 賢	山本晃生
欧文誌委員会	原田研介	和田正義
事業計画委員会	大原賢一	辻 俊明
国際委員会	中臺一博	稲邑哲也
研究協議会	松日楽信人	松野文俊
学術講演会実行委員会	大日方五郎 (36回)	岩田浩康 (37回)
表彰委員会	浅田 稔	村上弘記
学会誌論文賞選考小委員会	松日楽信人	村上弘記
Advanced Robotics Best Paper Award 選考 小委員会	松日楽信人	村上弘記
実用化技術賞選考小委員会	浅田 稔	松野文俊
功労賞選考小委員会	浅田 稔	村上弘記
ロボット活用社会貢献賞選考小委員会	松日楽信人	松野文俊
研究奨励賞選考小委員会	浅田 稔	村上弘記
ロボティクスシンポジウム研究奨励賞選考小委 員会	浅田 稔	村上弘記
外部表彰選考小委員会	松日楽信人	松野文俊
体制整備委員会	澤 俊裕	浅田 稔
アドバイザーボード	澤 俊裕	浅田 稔
コンプライアンス委員会	澤 俊裕	浅田 稔
情報システム管理委員会	原口林太郎	有坂寿洋
学術講演会管理委員会	松日楽信人	村上弘記
ロボット研究開発アーカイブ実行委員会	石橋一郎	矢野 寛
学会価値委員会	浅田 稔	浅田 稔
IRH2018 実行委員会	松日楽信人	松野文俊

4. 役員の選出

平成31年度の理事・監事を選出した。

5. 運営報告会、理事会

- (1) 平成31年9月4日(水)に運営報告会を開催し、会務報告を行っ
 た。
- (2) 平成31年（令和元年）度中に10回の理事会を開催し、会務の
 審理と処理を行った。

6. フェローの選任

9名のフェローを選任した。

7. 学会の基盤強化

今年度も、理事会・各種委員会で、個人会員および賛助会員の増大
 を目指し、各種改善施策の推進・実施に務めたが、賛助会員数は増加
 したものの、個人会員数は減少傾向となった。会員数の増強に関しては、
 引き続き努力中であり、継続が必要である。また、基盤強化の施策と
 して、学会誌については2019年1月号からデザインも含めリニューアルし、
 改善を継続努力中であるが、さらなる施策実施に努力が必要である。

8. 学会の社会的価値・サービスの向上

今年度は、特にHP改革WGを主体に、学会HPの改革を強力に進め、
 第1弾として2019年9月の学術講演会開催に合わせ、新たなHP「ロボ
 学」の運用を開始し、学会の価値向上・サービス向上にかかわる情
 報発信を行う基本ツールを強化した。運用開始後、会員より様々な意
 見をいただいているが、今後意見を反映しさらなる改革を進め、利用
 促進を図り、親しみやすい効果の高いツールとなるよう整備を進める。

そのほかに、広報活動の強化策として、ロボット学会に関連する科
 学技術の動向やトピックスに対し、学術講演会のタイミングで、報道
 関係者向けに発表を行うなどの、新しい試みを実施した。

さらに、学生向けの英文論文の添削支援なども実施が始まり、サー
 ビス向上策も展開中である。

X. 事業報告に係る附属明細書 [担当：庶務理事]

事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。

【第2号議案】

令和元年度 決算報告

貸借対照表

令和元年12月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	241,702,505	236,287,814	5,414,691
現金	3,673,791	3,645,548	28,243
普通預金	98,514,646	72,226,986	26,287,660
振替口座	5,032,953	25,945,477	△ 20,912,524
通常貯金	989,521	989,513	8
定期預金	133,491,594	133,480,290	11,304
未収会費	2,228,800	1,939,200	289,600
未収金	3,157,272	3,246,156	△ 88,884
前払金	625,168	514,549	110,619
立替金	0	35,640	△ 35,640
仮払金	6,613,336	5,388,561	1,224,775
流動資産合計	254,327,081	247,411,920	6,915,161
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
退職給付引当資産	13,075,825	12,265,189	810,636
定期預金	21,000,000	21,000,000	0
特定資産合計	34,075,825	33,265,189	810,636
(2) その他固定資産			
電話加入権	153,100	153,100	0
敷金	63,000	63,000	0
保証金	2,500,000	2,500,000	0
その他固定資産合計	2,716,100	2,716,100	0
固定資産合計	36,791,925	35,981,289	810,636
資産合計	291,119,006	283,393,209	7,725,797
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	2,620,012	2,369,331	250,681
前受会費	22,667,600	23,456,000	△ 788,400
前受入金	6,000	10,000	△ 4,000
預り金	798,616	808,930	△ 10,314
仮受金	3,730,758	3,348,921	381,837
未払法人税等	70,000	70,000	0
流動負債合計	29,892,986	30,063,182	△ 170,196
2. 固定負債			
退職給付引当金	13,075,825	12,265,189	810,636
固定負債合計	13,075,825	12,265,189	810,636
負債合計	42,968,811	42,328,371	640,440
III 正味財産の部			
一般正味財産	248,150,195	241,064,838	7,085,357
(うち特定資産への充当額)	(21,000,000)	(21,000,000)	(0)
正味財産合計	248,150,195	241,064,838	7,085,357
負債及び正味財産合計	291,119,006	283,393,209	7,725,797

貸借対照表内訳表
令和元年12月31日現在

(単位：円)					
科目	実施事業等会計	その他会計	法人会計	内部取引消去	合計
I 資産の部					
1. 流動資産					
現金預金	3,461,096	0	238,241,409	0	241,702,505
未収会費			2,228,800		2,228,800
未収金			3,157,272		3,157,272
前払金			625,168		625,168
仮払金			6,613,336	3,461,096	3,152,240
流動資産合計	3,461,096	0	250,865,985	3,461,096	250,865,985
2. 固定資産					
(1) 特定資産					
退職給付引当資産	9,388,938	335,171	3,351,716		13,075,825
定期預金			21,000,000		21,000,000
特定資産合計	9,388,938	335,171	24,351,716	0	34,075,825
(2) その他固定資産					
電話加入権	76,264	25,205	51,631		153,100
敷金			63,000		63,000
保証金			2,500,000		2,500,000
その他固定資産合計	76,264	25,205	2,614,631	0	2,716,100
固定資産合計	9,465,202	360,376	26,966,347	0	36,791,925
資産合計	12,926,298	360,376	277,832,332	3,461,096	287,657,910
II 負債の部					
1. 流動負債					
未払金			2,620,012		2,620,012
前受会費			22,667,600		22,667,600
前受入会金			6,000		6,000
預り金			798,616		798,616
仮受金	3,461,096		269,662	3,461,096	269,662
未払法人税等			70,000		70,000
流動負債合計	3,461,096	0	26,431,890	3,461,096	26,431,890
2. 固定負債					
退職給付引当金	9,388,938	335,171	3,351,716		13,075,825
固定負債合計	9,388,938	335,171	3,351,716	0	13,075,825
負債合計	12,850,034	335,171	29,783,606	3,461,096	39,507,715
会計区分間振替勘定					
会計区分間振替勘定	76,264	25,205	△ 101,469		0
会計区分間振替勘定合計	76,264	25,205	△ 101,469	0	0
III 正味財産の部					
一般正味財産	0	0	248,150,195	0	248,150,195
正味財産合計	0	0	248,150,195	0	248,150,195
負債及び正味財産合計	12,926,298	360,376	277,832,332	3,461,096	287,657,910

正味財産増減計算書

平成31年1月1日から令和元年12月31日まで

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 特定資産運用益	101	92	9
特定資産受取利息	101	92	9
② 受取入会金	95,000	84,000	11,000
正会員受取入会金	95,000	84,000	11,000
学生会員受取入会金	0	0	0
③ 受取会費	41,651,600	41,513,200	138,400
正会員受取会費	29,490,000	29,950,000	△ 460,000
学生会員受取会費	2,401,600	2,763,200	△ 361,600
賛助会員受取会費	9,760,000	8,800,000	960,000
④ 事業収益	62,751,999	46,026,718	16,725,281
参加費事業収益	21,353,000	16,259,000	5,094,000
懇親会参加費事業収益	2,349,000	1,929,000	420,000
展示料事業収益	14,228,000	3,106,000	11,122,000
講演概要集広告料事業収益	270,000	159,000	111,000
セミナー参加費事業収益	8,429,625	7,620,040	809,585
会誌掲載料事業収益	5,889,480	7,095,060	△ 1,205,580
会誌広告料事業収益	6,550,562	6,460,992	89,570
会誌頒布事業収益	1,348,332	1,375,596	△ 27,264
編集料事業収益	2,334,000	2,022,030	311,970
⑤ 受取補助金等	65,000	0	65,000
受取国庫補助金	0	0	0
受取地方公共団体助成金	0	0	0
受取民間補助金	65,000	0	65,000
⑥ 雑収益	20,695,685	26,877,394	△ 6,181,709
受取利息	13,632	13,532	100
雑収益	20,682,053	26,863,862	△ 6,181,809
経常収益計	125,259,385	114,501,404	10,757,981
(2) 経常費用			
① 事業費	87,790,801	61,727,348	26,063,453
給料手当	10,064,169	9,824,943	239,226
臨時雇賃金	3,863,615	1,392,906	2,470,709
退職給付費用	546,610	872,282	△ 325,672
福利厚生費	1,594,298	1,539,007	55,291
旅費交通費	2,824,994	2,648,258	176,736
通信運搬費	4,150,386	3,993,478	156,908
消耗什器備品費	318,360	129,380	188,980
消耗品費	2,659,389	3,886,881	△ 1,227,492
印刷製本費	17,079,244	17,918,613	△ 839,369
賃借料	436,268	1,069,902	△ 633,634
諸謝金	1,869,154	1,598,643	270,511
租税公課	1,139,000	1,041,200	97,800
支払負担金	13,819,241	4,061,653	9,757,588
委託費	21,534,393	9,113,902	12,420,491
雑費	5,891,680	2,636,300	3,255,380
② 管理費	30,313,227	30,661,256	△ 348,029
給料手当	9,396,637	9,239,524	157,113
臨時雇賃金	1,400,095	1,925,202	△ 525,107
退職給付費用	264,026	267,694	△ 3,668
福利厚生費	1,496,260	1,445,691	50,569
会議費	173,016	181,656	△ 8,640
旅費交通費	798,958	742,349	56,609
通信運搬費	1,080,764	794,256	286,508
消耗什器備品費	181,828	242,560	△ 60,732
消耗品費	302,376	415,827	△ 113,451
印刷製本費	466,707	731,152	△ 264,445
光熱水料費	396,605	397,883	△ 1,278
賃借料	7,057,976	7,387,375	△ 329,399
保険料	6,000	6,000	0
支払手数料	1,012,705	763,590	249,115
諸会費	343,274	344,815	△ 1,541

諸謝金	1,102,248	1,087,020	15,228
租税公課	61,000	56,200	4,800
委託費	2,729,133	3,224,199	△ 495,066
雑費	2,043,619	1,408,263	635,356
経常費用計	118,104,028	92,388,604	25,715,424
評価損益等調整前当期経常増減額	7,155,357	22,112,800	△ 14,957,443
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	7,155,357	22,112,800	△ 14,957,443
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	7,155,357	22,112,800	△ 14,957,443
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	7,085,357	22,042,800	△ 14,957,443
一般正味財産期首残高	241,064,838	219,022,038	22,042,800
一般正味財産期末残高	248,150,195	241,064,838	7,085,357
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	248,150,195	241,064,838	7,085,357

正味財産増減計算書内訳表
平成31年1月1日から令和元年12月31日まで

No. 1 (単位：円)

科 目	実 施 事 業 等 会 計							共通	小計 (A)
	継1 シンポジウム	継2 学会誌	継3 欧文誌	継4 調査・研究	継5 表彰	継6 国際			
I 一般正味財産増減の部									
1. 経常増減の部									
(1) 経常収益									
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利息									
受 取 入 会 金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取入会金									
学生会員受取入会金									
受 取 会 費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取会費									
学生会員受取会費									
賛助会員受取会費									
事 業 収 益	0	13,788,374	2,334,000	0	0	0	0	0	16,122,374
申込金事業収益									
参加費事業収益									
懇親会参加費事業収益									
展示料事業収益									
講演要覧広告料事業収益									
セミナー参加費事業収益									
会誌掲載料事業収益		5,889,480							5,889,480
会誌広告料事業収益		6,530,562							6,530,562
会誌頒布事業収益		1,348,332							1,348,332
編集料事業収益			2,334,000						2,334,000
受 取 補 助 金 等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金									
受取地方公共団体補助金									
受取民間助成金									
受 取 寄 付 金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受 取 寄 付 金									
雑 収 益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受 取 利 息									
雑 収 益									
経 常 収 益 計	0	13,788,374	2,334,000	0	0	0	0	0	16,122,374
(2) 経常費用									
事 業 費	1,994,308	30,701,099	9,164,065	1,792,137	7,881,553	4,298,445	0	55,831,607	
給 料 手 当		5,220,848			4,128,487			9,349,335	
臨 時 雇 賃 金	356,285	24,210		54,000				434,495	
退職給付費用		252,470			267,738			520,208	
福利厚生費		830,251			650,552			1,480,803	
旅費交通費	146,881	517,069	46,172	340	68,887	1,475,928		2,255,277	
通信運搬費	24,424	3,616,222	21,989	32,174	81,345	42,384		3,818,538	
消耗什器備品費		75,125	75,125					150,250	
消 耗 品 費	93,389	113,163	12,733	1,178	26,029	40,491		286,983	
印刷製本費	162,405	13,219,174		114,599				13,496,178	
賃 借 料				93,508	23,760			117,268	
諸 謝 金	11,585			999,016				1,010,611	
租 税 公 課		487,700	8,000					495,700	
支 払 負 担 金	400,309	483,660	5,280,262	59,307		7,000		6,230,538	
委 託 費	791,710	5,860,613	3,719,784	431,460	431,460	2,071,206		13,306,233	
雑 費	7,310	594		6,535	2,203,295	661,436		2,879,190	
管 理 費	0	0	0	0	0	0	0	0	
給 料 手 当									
臨 時 雇 賃 金									
退職給付費用									
福利厚生費									
会 議 費									
旅費交通費									
通信運搬費									
消耗什器備品費									
消 耗 品 費									
印刷製本費									

光熱水料費							
賃借料							
保険料							
支払手数料							
諸会費							
諸謝金							
租税公課							
委託費							
雑費							
経常費用計	1,994,308	3,070,099	9,164,065	1,792,137	7,881,553	4,298,445	0
評価損益等調整前 当期経常増減額	-1,994,308	-16,912,725	-6,830,065	-1,792,137	-7,881,553	-4,298,445	0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	-1,994,308	-16,912,725	-6,830,065	-1,792,137	-7,881,553	-4,298,445	0
2. 経常外増減の部							
(1) 経常外収益							
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用							
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替前当期 一般正味財産増減額	-1,994,308	-16,912,725	-6,830,065	-1,792,137	-7,881,553	-4,298,445	0
他会計振替額	1,994,308	16,912,725	6,830,065	1,792,137	7,881,553	4,298,445	0
税引前当期一般 正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0
法人税、住民税及び事業税							
当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0
一般正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0
一般正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0
II 指定正味財産増減の部							
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0

正味財産増減計算書内訳表

平成31年1月1日から令和元年12月31日まで

No. 2

(単位：円)

科 目	その他会計				法人 会計 (C)	内部取 引消去	合計 (A) + (B) + (C)
	他1 学術 講演会	他2 講習会	共通	小計 (B)			
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
特定資産運用益	0	0	0	0	101	0	101
特定資産受取利息					101		101
受取入金	0	0	0	0	95,000	0	95,000
正会員受取入金					95,000		95,000
学生会員受取入金							0
受取会費	0	0	0	0	41,651,600	0	41,651,600
正会員受取会費					29,490,000		29,490,000
学生会員受取会費					2,401,600		2,401,600
賛助会員受取会費					9,760,000		9,760,000
事業収益	38,200,000	8,429,625	0	46,629,625	0	0	62,751,999
申込金事業収益							0
参加費事業収益	21,353,000			21,353,000			21,353,000
懇親会参加費事業収益	2,349,000			2,349,000			2,349,000
展示料事業収益	14,228,000			14,228,000			14,228,000
講演費事業収益	270,000			270,000			270,000
セミナー参加費事業収益		8,429,625		8,429,625			8,429,625
会誌掲載料事業収益							5,889,480
会誌広告料事業収益							6,550,562
会誌頒布事業収益							1,348,332
編集料事業収益							2,334,000
受取補助金等	0	0	0	0	65,000	0	65,000
受取国庫補助金							0
受取地方公共団体補助金							0
受取地方公共団体助成金					65,000		65,000
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金							0
雑収益	0	0	0	0	20,695,685	0	20,695,685
受取利息					13,632		13,632
雑収益					20,682,053		20,682,053
経常収益計	38,200,000	8,429,625	0	46,629,625	62,507,386	0	125,559,385
(2) 経常費用							
事業費	27,570,493	4,388,701	0	31,959,194	0	0	87,790,801
給料手当	714,834			714,834			10,064,169
臨時雇賃金	3,309,120	120,000		3,429,120			3,863,615
退職給付費用	26,402			26,402			5,466,010
福利厚生費	113,495			113,495			1,594,298
旅費交通費	167,410	402,307		569,717			2,824,994
通信運搬費	290,437	41,411		331,848			4,150,386
消耗什器備品費		168,110		168,110			318,360
消耗品費	560,139	1,812,267		2,372,406			2,659,389
印刷製本費	3,501,477	81,589		3,583,066			17,079,244
賃借料		319,000		319,000			436,268
諸謝金	121,393	737,150		858,543			1,869,154
租税公課	420,600	222,700		643,300			1,139,000
支払負担金	7,539,036	49,667		7,588,703			13,819,241
委託費	7,796,700	431,460		8,228,160			21,534,393
雑費	3,009,450	3,040		3,012,490			5,891,680
管理費	0	0	0	0	30,313,227	0	30,313,227
給料手当					9,396,637		9,396,637
臨時雇賃金					1,400,095		1,400,095
退職給付費用					264,026		264,026
福利厚生費					1,496,260		1,496,260
会議費					173,016		173,016
旅費交通費					798,958		798,958
通信運搬費					1,080,764		1,080,764
消耗什器備品費					181,828		181,828
消耗品費					302,376		302,376

印刷製本費				466,707		466,707	
光熱水料費				396,605		396,605	
賃借料				7,057,976		7,057,976	
保険料				6,000		6,000	
支払手数料				1,012,705		1,012,705	
諸会費				343,274		343,274	
諸謝金				1,102,248		1,102,248	
租税公課				61,000		61,000	
委託費				2,729,133		2,729,133	
雑費				2,043,619		2,043,619	
経常費用計	27,570,493	4,388,701	0	31,959,194	30,313,227	0	118,104,028
評価損益等調整前 当期経常増減額	10,629,507	4,040,924	0	14,670,431	32,194,139	0	7,155,357
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	10,629,507	4,040,924	0	14,670,431	32,194,139	0	7,155,357
2. 経常外増減の部							
(1) 経常外収益							
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用							
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替前当期 一般正味財産増減額	10,629,507	4,040,924	0	14,670,431	32,194,139	0	7,155,357
他会計振替額	-10,629,507	-4,040,924	0	-14,670,431	-25,038,802	0	0
税引前当期一般 正味財産増減額	0	0	0	0	7,155,357	0	7,155,357
法人税、住民税及び事業税					70,000		70,000
当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	7,085,357	0	7,085,357
一般正味財産期首残高	0	0	0	0	241,064,838	0	241,064,838
一般正味財産期末残高	0	0	0	0	248,150,195	0	248,150,195
II 指定正味財産増減の部							
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	0	0	0	0	248,150,195	0	248,150,195

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

退職給付引当金は、期末退職給与の要支給額に相当する金額を計上している。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み方式によっている。

2. 特定資産の増減額およびその残高

特定資産の増減額およびその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特 定 資 産				
退職給付引当資産	12,265,189	810,636	0	13,075,825
定期預金	21,000,000	0	0	21,000,000
合 計	33,265,189	810,636	0	34,075,825

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
特 定 資 産				
退職給付引当資産	13,075,825	—	(0)	(13,075,825)
定期預金	21,000,000	(0)	(21,000,000)	—
合 計	34,075,825	(0)	(21,000,000)	(13,075,825)

4. 補助金等の内訳ならびに交付者、当期の増減額および残高

補助金等の内訳ならびに交付者、当期の増減額および残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の 名称	交付者	前期 末残高	当期 増加額	当期 減少額	当期 末残高	貸借対照 表上の記 載区分
補助金 民間補助金	早稲田大学	0	65,000	65,000	0	
合 計		0	65,000	65,000	0	

附 属 明 細 書

1. 特定資産の明細

特定資産の明細については、「財務諸表に対する注記」の「2. 特定資産の増減額およびその残高」に記載のとおりである。

2. 引当金の明細

(単位：円)

科 目	期首残高	当期 増加額	当期減少額		期末残高
			使用目的	その他	
退職給付引当金	12,265,189	810,636	0	0	13,075,825

財 産 目 録
令和元年 12 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
現金 手許有高	3,673,791	
普通預金 三菱東京 UFJ 銀行本店	33,191,374	
〃 みずほ銀行本郷支店	25,102,826	
〃 りそな銀行本郷支店	28,969,668	
〃 三井住友銀行小石川支店	11,250,778	
定期預金 三井住友銀行小石川支店	55,287,839	
〃 三菱 UFJ 信託銀行本店	60,133,605	
〃 みずほ銀行本郷支店	18,070,150	
振替口座 ゆうちょ銀行	5,032,953	
通常貯金 ゆうちょ銀行	989,521	
未収会費 令和 1 年度会費 349 名	2,228,800	
未収金 学会誌投稿料・広告料他	3,157,272	
前払金 令和 2 年 1 月分事務所家賃他	625,168	
仮払金 IROS2019AdvancedLoan 他	3,152,240	
流動資産合計		250,865,985
2 固定資産		
(1) 特定資産		
退職給付引当資産(普通預金) 三菱東京 UFJ 銀行春日町支店	13,075,825	
定期預金 三菱東京 UFJ 銀行本店	21,000,000	
特定資産合計		34,075,825
(2) その他固定資産		
電話加入権 2 本	153,100	
敷金 賃貸借契約敷金	63,000	
保証金 賃貸借契約保証金	2,500,000	
その他固定資産合計		2,716,100
固定資産合計		36,791,925
資産合計		287,657,910
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金 出版費・広告・別刷料(日本ロボット学会誌 37-10)	1,525,608	
〃 印刷・封入・郵送費(日本ロボット学会誌 37-10)	251,488	
〃 交通費(理事会関係他)	400,826	
〃 人材派遣費 12 月分	140,283	
〃 コピー機使用料	127,025	
〃 税理士顧問料(11.12 月分), SI2019 参加費他	174,782	
前受会費 会費前受分	22,667,600	
前受入会金 入会金前受分	6,000	
預り金 源泉所得税	109,129	
〃 住民税	64,700	
〃 社会保険料	624,787	
仮受金 第 24 回ロボティクスシンポジア(他学会分配分)	269,662	
未払法人税等 令和 1 年分法人都民税	70,000	
流動負債合計		26,431,890
2 固定負債		
退職給付引当金 退職給付分	13,075,825	
固定負債合計		13,075,825
負債合計		39,507,715
正味財産		248,150,195

監 査 報 告

私たち監事は、平成31年1月1日から令和元年12月31日までの第九期事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表等（貸借対照表（内訳表を含む）、正味財産増減計算書（内訳表を含む）、財務諸表に対する注記）及びその附属明細書について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 財務諸表等及びその附属明細書の監査結果

財務諸表等及びその附属明細書は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

令和2年2月19日
一般社団法人日本ロボット学会

監 事 吉見 卓 ㊟
監 事 澤 俊裕 ㊟

公益目的支出計画実施報告書に関する監査報告

私たち監事は、平成31年1月1日から令和元年12月31日までの第九期事業年度の公益目的支出計画実施報告書について監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

会計帳簿又はこれに関する資料、公益目的支出計画に関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る公益目的支出計画実施報告書について検討いたしました。

2. 監査の結果

公益目的支出計画実施報告書は、法令等に従い、適切に作成されているものと認めます。

令和2年2月19日
一般社団法人日本ロボット学会

監 事 吉見 卓 ㊟
監 事 澤 俊裕 ㊟

【報告資料 1】

令和2年度 事業計画

(自 令和2年1月1日 至 令和2年12月31日)

I. シンポジウム (継続事業1) [担当: 事業理事/学術講演会理事]

1. ロボット教育セミナー

ロボット教育セミナー「子供向けからくり教室 (仮)」

期日: 2020年7 or 8月 (予定)

2. オープンフォーラム

第38回学術講演会 (信州大学, 2020年9月2日(水)~5日(土)) にて, オープンフォーラム (無料・一般公開) を企画予定。

II. 学会誌 (継続事業2) [担当: 学会誌理事] (定款第4条2号)

従来どおり, 学会誌全10号を, 1月, 3月, 4月, 5月, 6月, 7月, 9月, 10月, 11月, 12月に刊行し, 会員に配布する。なお, 各号の特集テーマは以下を予定している。

- 第38巻1号 ヒトとロボットの共生社会のための哲学・心理学・法学
- 第38巻2号 福祉ロボットの社会実装 (仮)
- 第38巻3号 実災害現場に求められるロボット技術 (仮)
- 第38巻4号 スポーツとロボティクス (仮)
- 第38巻5号 ロボット技術の国際標準化 (仮)
- 第38巻6号 AIベースドロボットマニピュレーション最前線(仮)
- 第38巻7号 さがみロボット産業特区が育むロボット (仮)
- 第38巻8号 ロボット研究者のためのデザイン思考 (仮)
- 第38巻9号 教育・技術開発の場としてのロボットコンテスト(仮)
- 第38巻10号 身体と力学 (仮)

昨年同様, 各特集においては冒頭にカラーページを設け, 特集に登場するロボット等のカラー写真を掲載する。上記の特集以外にも, ロボット研究者や学生にとって魅力のある一般記事の作成を進める。具体的には, 学生を中心とした学生編集委員会を設けインタビュー記事を作成する, あるいは, より良い論文の書き方や良いプレゼンテーションを指図する教育的記事などの作成を検討していく。また, 2019年9月より運用されているロボ学 Web 版との連携を深め, 記事の相互融通の仕組みを充実させていくことで誌面のさらなる充実を図る。

一方, 会員からの学術投稿論文については印刷誌面からは切り離し完全オンライン化を実現する (解説論文・総合論文を除く)。これにより, 迅速な論文掲載を可能とし, 会員の研究成果をより早く世の中に届けられるような体制とする。さらに, 学術講演会と連携し, 学術講演会での講演をレター論文として同時に学会誌に投稿できる仕組みを構築する。このために, 従来論文規則を2019年に改正しており, 本学会主催講演会での講演論文に関しては同内容のまま学会誌に投稿可能としている。

広告に関しては, 収入目標を例年同様400万円と設定し, 特集に関連した企業広告の獲得など目標達成に向けた取り組みを進める。

III. 欧文誌 (継続事業3) [担当: 欧文誌理事] (定款第4条2号)

1. 欧文誌 (Advanced Robotics) の発行計画

下記のとおり, 2020年度においては Vol. 34 を年24号発行することを計画している。

Vol. No.	Month	Title
34/1, 2	Jan	Cyborg and Bionic System II
34/3, 4	Feb	Servuce Robots Technology
34/5, 6	Mar	Disaster Response Robot
34/7, 8	Apr	Industrial Robot Technology
34/9, 10	May	Disaster Response Robot — ImPACT Tough Robotics Challenge —
34/11, 12	Jun	Robot and Human Interactive Communication
34/13, 14	Jul	Robot Learning
34/15, 16	Aug	Neuro-Robotics
34/17, 18	Sep	Adaptive Motion of Animals and Machines
34/19, 20	Oct	Regular Issue
34/21, 22	Nov	Humanoid Robotics
34/23, 24	Dec	Swarm Robotics Algorithms

2. 編集体制

2020年度は, 細田耕編集長の下, シニアエディター8名および10名の欧文誌委員会メンバーを中心に, 査読小委員会, 国際編集委員, ア

ドバイザリー委員会のメンバーの協力を得ながら, 欧文誌 Advanced Robotics の国際的認知度向上, さらに日本ロボット学会と日本のロボット分野全体の国際的地位向上に貢献していく。

3. 欧文誌の内容向上と購読数増に向けて

2014年度から年間24号としたことで, 一般論文の査読・出版サイクルに大幅な改善が図られているが, 今後も採否決定までの期間90日を目標に出版を行っていく。一般論文の投稿数を見ながら積極的かつ戦略的な特集号企画を行い, 国際的な認知度のさらなる向上, また引用の多い論文数件を Open Access 可能とする等を実施し掲載論文の質の向上を図り, 昨年度1.0以上を達成した Citation Index の評価 (インパクトファクタ) の更なる向上を目指す。さらに, 国際貢献の意味も含め, 国内外からの投稿数をさらに増大させていく。また, 完全 Open Access 化や有料化についても, その是非も含めて検討を開始する。

4. 国際化に向けての活動

主要な国際会議 IROS にあわせて国際編集委員会を開催し, 海外委員による特集号企画などを通して, 国際的認知度を高める努力を行っていく。また国際貢献のために, ロボット学会の外国人会員の増加, 日本の優れた研究の世界への発信などを引き続き積極的に進めていく。また, 国際委員会の活動に協力し, 他学会との協力体制強化, パンフレットの国際会議場などでの配布, AR 宣伝のためのポスターの制作と配布, ウェブの英語コンテンツ充実, 等を実施する。

IV. 調査・研究 (継続事業4) [担当: 企画・広報理事] (定款第4条3号)

1. 調査・研究専門委員会活動

以下の調査研究委員会, 研究専門委員会による活動を行う。

(1) 研究専門委員会

委員会名	委員長	発 足	種別
遊びとロボット研究専門委員会	橋本秀紀	2017年5月	I種
ロボット考学研究専門委員会	上出寛子	2017年4月	I種
ヒューマノイド・ロボティクス研究専門委員会	杉原知道	2017年4月	I種
ソフトロボティクス研究専門委員会	新山龍馬	2017年4月	II種
開かれた知能研究専門委員会	下田真吾	2014年9月	I種
インテリジェントホームロボティクス研究専門委員会	佐野睦夫	2014年8月	II種
データ工学ロボティクス研究専門委員会	大野和則	2012年4月	I種
ネットワークを利用したロボットサービス研究専門委員会	成田雅彦	2010年3月	I種
ヒューロビント研究専門委員会	横田 諭	2009年4月	I種
ヒューマンセントリックロボティクス研究専門委員会	田原健二	2008年4月	I種
北海道ロボット技術研究専門委員会	近野 敦	2008年4月	I種
空間知能化研究専門委員会	新妻実保子	2007年1月	II種

(2) 調査研究委員会

委員会名	委員長	発 足
アカデミックロボットベンチャー調査研究委員会	岩田君彦	2020年1月
廃炉に向けたロボットの調査研究と社会貢献に関する調査研究委員会	吉見 卓	2015年1月
産学連携調査研究委員会	村上弘記	2013年5月
広域災害対応に関する技術基盤調査研究委員会	浅間 一	2013年1月

(3) 技術・カテゴリ別委員会

委員会名	委員長	発 足
ロボット教育事業計画委員会	琴坂信哉	2015年4月
建設ロボット委員会	栗栖正充	2013年10月

V. 表彰 (継続事業5) [担当: 企画・広報理事] (定款第4条4号)

1. 表彰

第38回学術講演会において, 学会誌論文賞, Advanced Robotics Paper Awards, 実用化技術賞, 研究奨励賞, ロボティクスシンポジウム研究奨励賞, ロボット活用社会貢献賞, 功労賞, 優秀研究・技術賞および優秀講演賞の授与を行う。さらに, ロボット学の研究を行い, 学業成績が優秀な大学学部生, 高等専門学校生に対して優秀学生賞の授与を行う。また, FA 財団論文賞への候補論文の推薦など, 学会員やロボット分野の発展にとって有益と思われる, 外部団体からの各賞の推薦依頼やその他の表彰についても, 積極的に対応していく。

VI. 国際（継続事業 6）[担当：国際理事]（定款第 4 条 5 号）

1. 学術講演会における国際セッション
第 38 回日本ロボット学会学術講演会（信州大学）において、OS 国際セッションを組織する。発表者には、参加登録費を課すが、登壇資格は問わない。
2. 国際会議関連
本会に係る下記国際会議の共催／協賛、運営への寄与とステアリング会議への代表の派遣を行う。
・RO-MAN2020 日程：2020 年 8 月 31 日～9 月 4 日、会場：ナポリ、イタリア
・IROS2020 日程：2020 年 10 月 24 日～30 日、会場：ラスベガス、米国
RO-MAN2020 では学際的研究を対象とした賞のスポンサーとなる。（賞の名称については現在検討中）
RO-MAN Steering Committee には、国際担当理事、事務局長が参加する。
IROS Steering Committee には、会長、国際担当理事、事務局長が参加する。
IROS2020 では Best Conference Paper Award のスポンサーとなる。
IROS2020 では、主に若手研究者向けの RSJ Tutorial を企画・実施する。また、企業（主に機器展示企業）と参加者のコラボレーションの機会のための RSJ Lunch for Industry and Academia Collaboration (RSJ-IAC Lunch) を企画・実施する。
3. その他
 - (1) 日本ロボット学会の国際化に向けた取組みの実施
・対アジア外交における戦略の立案（協調と競争のバランス付け）
・PARSU (Pacific-Asia Robotics Society Union) を介したアジア・オセアニア地域間での連携
・IROS、RO-MAN 等の国際会議での日本ロボット学会の広報
・英語による広報活動の展開（ウェブページ、パンフレット）
 - (2) 国際委員会の位置づけと活動の見直し
 - (3) ロボット教育プログラムの確立とその標準化

VII. 学術講演会（その他事業 1）[担当：学術講演会理事]（定款第 4 条 1 号）

1. 学術講演会・シンポジウム等
 - (1) 第 38 回学術講演会
期 日：2020 年 9 月 2 日（水）～5 日（土）
会 場：信州大学 長野（工学）キャンパス
実行委員長：山崎公俊（信州大学）
プログラム委員長：鈴木 智（千葉大学）

VIII. 講習会（その他事業 2）[担当：事業理事]（定款第 4 条 1 号）

1. ロボット工学セミナー開講予定（タイトルはすべて仮）
 - (1) 第 125 回「物流ロボットにおける物体認識技術とハンドリング技術の最前線」
期 日：2020 年 4 月 24 日（予定）
オーガナイザ：桑原伸明（アイシン精機）
 - (2) 第 126 回「ロボットのための画像処理技術」
期 日：2020 年 5 月（予定）
オーガナイザ：牛久祥孝（オムロンサイニクエックス）
 - (3) 第 127 回「ロボットの作り方 ～移動ロボットの制御と ROS による動作計画実習～」
期 日：2020 年 6 月（予定）
オーガナイザ：ラミレス イクシエル（産業技術総合研究所）、池 勇勲（中央大学）
 - (4) 第 128 回「生物の多脚歩行と多脚歩行ロボットの制御技術」
期 日：2020 年 6 月（予定）
オーガナイザ：一葉秀行（日立製作所）
 - (5) 第 129 回「ソフトロボットのこれまでとこれから」
期 日：2020 年 9 月（予定）
オーガナイザ：外屋 賢（東京工業大学）
 - (6) 第 130 回「宇宙開発を支えるロボット技術の最前線」
期 日：2020 年 10 月（予定）
オーガナイザ：永岡健司（九州工業大学）
 - (7) 第 131 回「福島復興で活躍するロボット」
期 日：2019 年 11 月（予定）

- オーガナイザ：山田大地（日本原子力研究開発機構）
- (8) 第 132 回「視覚と言葉を通じたロボットとの共同作業を目指して」
期 日：2019 年 11 月（予定）
オーガナイザ：牛久祥孝（オムロンサイニクエックス）
2. 共催・協賛等
本会に関連する国内行事の共催・協賛・後援について審査を行う。
国内共催事業（予定を含む）：
 - (1) 第 25 回ロボティクスシンポジウム
期 日：2020 年 3 月 15 日（日）、16 日（月）
会 場：北海道函館市 湯の川温泉 花びしホテル
実行委員長：鈴木昭二（公立はこだて未来大学）
 - (2) ロボカップジャパンオープン 2020
期 日：2020 年 3 月 20 日（金）～3 月 22 日（日）、開催地：愛知県国際展示場
 - (3) 知能ロボットコンテスト・フェスティバル 2020
期 日：未定、開催地：未定
 - (4) 第 20 回レスキューロボットコンテスト
期 日：2020 年 8 月、開催地：神戸

IX. 法人処理 [担当：庶務理事]

1. 第 10 回定時総会
会 期：令和 2 年 3 月 19 日（予定）
会 場：全水道会館（予定）
2. 委員会活動
下記の委員会を開催する。

委員会名	委員長 (1 月～3 月)	委員長 (3 月～12 月予定)
会誌編集委員会	山本晃生	永谷圭司
欧文誌委員会	和田正義	武居直行
事業計画委員会	辻 俊明	新妻実保子
国際委員会	稲邑哲也	田中文英
研究協議会	松野文俊	松野文俊
学術講演会実行委員会	岩田浩康 (37 回)	山崎公俊 (38 回)
表彰委員会	村上弘記	村上弘記
学会誌論文賞選考小委員会	村上弘記	村上弘記
Advanced Robotics Best Paper Award 選考小委員会	村上弘記	村上弘記
実用化技術賞選考小委員会	松野文俊	松野文俊
功労賞選考小委員会	村上弘記	村上弘記
ロボット活用社会貢献賞選考小委員会	松野文俊	松野文俊
研究奨励賞選考小委員会→学術講演会 関連賞選考小委員会	村上弘記	村上弘記
ロボティクスシンポジウム研究奨励賞選考 小委員会	村上弘記	村上弘記
外部表彰選考小委員会	松野文俊	松野文俊
体制整備委員会	浅田 稔	浅田 稔
アドバイザリーボード	浅田 稔	浅田 稔
コンプライアンス委員会	浅田 稔	浅田 稔
情報システム管理委員会	有坂寿洋	蓮沼仁志
学術講演会管理委員会	村上弘記	村上弘記
ロボット研究開発アーカイブ実行委員会	矢野 寛	岡田 聡
学会価値委員会	浅田 稔	浅田 稔
IRH 実行委員会	松野文俊	松野文俊

3. 役員の選出
令和 2 年度の理事・監事を選出する。
4. フェロー、名誉会員の選任
フェロー、名誉会員の推薦を行い選任する。
5. 学会の基盤強化
新規委員会体制の下に、会員の拡大、論文発表の活性化を目指すことを基本に活動を実施する。外部への働き掛けとして、産業貢献・異業種連携活動のほか、昨年に引き続き、広報活動全般の強化を図る。特に、改革を実行中の HP・学会誌等のコンテンツ強化を引き続き推進

し、学会の知名度向上を図る。また、非専門家が入会しやすいしくみの構築や認知活動の継続、学生会員が会員継続したくなる価値の創出と、若年層への啓発活動も継続実施する。

6. 学会サービスの向上

学会価値委員会を中心に、学会ホームページのコンテンツの充実、情報サービスの拡大を、継続して推進し、会員サービスの質の向上を図るとともに、学会の社会的価値の向上を図る。

7. 規約等の制定・整備

体制整備委員会、コンプライアンス委員会にて、学会運営の効率化・適正化、学会員の利便性向上に必要な規約等の制定・整備を引き続き実施していく。

8. 将来検討

広報活動のフィードバックを反映し、学会価値委員会等の活動により、本学会の将来展開に向けた方針や制度等に関する検討およびその具体化に取り組む。

9. 事務局運営

体制整備委員会の指導の下、中長期的な視点に立って事務局体制について検討・整備する。

【報告資料 2】

令和2年度予算計画

収支予算書(損益ベース)令和2年1月1日～令和2年12月31日(公益事業)								
科 目	実施事業等会計							
	継1 シンポジウム	継2 学会誌	継3 欧文誌	継4 調査・研究	継5 表彰	継6 国際	共通	小計 (A)
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利息								
受取入金	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取入金								
学生会員受取入金								
受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取会費								
学生会員受取会費								
賛助会員受取会費								
事業収益	0	14,028,000	2,400,000	0	0	0	0	16,428,000
申込金事業収益								
参加費事業収益								
懇談会参加費事業収益								
展示料事業収益								
講演概要集広告料事業収益								
セミナー参加費事業収益								
会誌掲載料事業収益		6,228,000						6,228,000
会誌広告料事業収益		6,461,000						6,461,000
会誌頒布事業収益		1,339,000						1,339,000
編集料事業収益			2,400,000					2,400,000
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金								
受取地方公共団体補助金								
受取地方公共団体助成金								
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金								
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	0
受取利息								
雑収益								
経常収益計	0	14,028,000	2,400,000	0	0	0	0	16,428,000
(2) 経常費用								
事業費	1,069,000	27,303,495	5,294,000	1,493,000	8,057,280	5,335,000	0	48,571,775
給料手当		5,302,345			4,083,880			9,386,225
臨時雇賃金	100,000	37,000		428,000				565,000
退職給付費用		397,800			280,800			678,600
福利厚生費		1,182,350			834,600			2,016,950
旅費交通費	47,000	562,000	150,000	10,000	119,000	530,000		1,438,000
通信運搬費	13,000	3,476,000	21,000	53,000	59,000	24,000		3,646,000
消耗什器備品費								
消耗品費	113,000	54,000	13,000	30,000	453,000			663,000
印刷製本費		12,843,000		10,000				12,853,000
賃借料	18,000			102,000	24,000			144,000
諸謝金	140,000			608,000		500,000		1,248,000
租税公課		488,000	8,000					496,000
支払負担金	271,000	458,000	1,800,000	81,000				2,610,000
委託費	367,000	2,350,000	3,302,000	134,000		345,000		6,498,000
雑費		153,000		37,000	2,203,000	3,936,000		6,329,000
管理費	0	0	0	0	0	0	0	0
給料手当								
臨時雇賃金								
退職給付費用								
福利厚生費								
会議費								
旅費交通費								
通信運搬費								
消耗什器備品費								

消耗品費								
印刷製本費								
光熱水料費								
賃借料								
保険料								
支払手数料								
諸会費								
諸謝金								
租税公課								
委託費								
雑費								
経常費用計	1,069,000	27,303,495	5,294,000	1,493,000	8,057,280	5,355,000	0	48,571,775
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	-1,069,000	-13,275,495	-2,894,000	-1,493,000	-8,057,280	-5,355,000	0	-32,143,775
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	1,069,000	13,275,495	2,894,000	1,493,000	8,057,280	5,355,000		32,143,775
税引前当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
法人税、住民税及び事業税								
当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0

収支予算書(損益ベース)令和2年1月1日～令和2年12月31日(その他事業)

科 目	その他会計				法人会計(C)	内部取引消去	合計(A)+(B)+(C)
	他1学術講演会	他2講習会	共通	小計(B)			
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
特定資産運用益	0	0	0	0		0	0
特定資産受取利息							0
受取入金	0	0	0	0	100,000	0	100,000
正会員受取入金					100,000		100,000
学生会員受取入金					0		0
受取会費	0	0	0	0	42,542,000	0	42,542,000
正会員受取会費					30,120,000		30,120,000
学生会員受取会費					2,822,000		2,822,000
賛助会員受取会費					9,600,000		9,600,000
事業収益	23,582,000	8,760,000	0	32,342,000	0	0	48,770,000
申込金事業収益							
参加費事業収益	16,000,000			16,000,000			16,000,000
懇談会参加費事業収益	3,040,000			3,040,000			3,040,000
展示料事業収益	4,192,000			4,192,000			4,192,000
書籍料事業収益	350,000			350,000			350,000
セミナー参加費事業収益		8,760,000		8,760,000			8,760,000
会誌掲載料事業収益							6,228,000
会誌広告料事業収益							6,461,000
会誌頒布事業収益							1,339,000
編集料事業収益							2,400,000
受け取り補助金等	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金							0
受取地方公共団体補助金							
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金							
雑収益	0	0	0	0	11,674,000	0	11,674,000
受取利息					14,000		14,000
雑収益					11,660,000		11,660,000
経常収益計	23,582,000	8,760,000	0	32,342,000	54,316,000	0	103,086,000
(2) 経常費用							
事業費	19,280,355	5,356,000	0	24,636,355	0	0	73,208,130
給料手当	685,405			685,405			10,071,630

臨時雇賃金	1,105,000	200,000		1,305,000		1,870,000	
退職給付費用	23,400			23,400		702,000	
福利厚生費	69,550			69,550		2,086,500	
旅費交通費	500,000	400,000		900,000		2,338,000	
通信運搬費	100,000	38,000		138,000		3,784,000	
消耗什器備品費							
消耗品費	150,000	3,124,000		3,274,000		3,937,000	
印刷製本費	3,500,000	60,000		3,560,000		16,413,000	
賃借料	1,200,000	250,000		1,450,000		1,594,000	
諸謝金	150,000	1,150,000		1,300,000		2,548,000	
租税公課	421,000	62,000		483,000		979,000	
支払負担金	5,100,000	24,000		5,124,000		7,734,000	
委託費	3,267,000	16,000		3,283,000		9,781,000	
雑費	3,009,000	32,000		3,041,000		9,370,000	
管理費	0	0	0	0	28,830,870	0	28,830,870
給料手当					8,967,370		8,967,370
臨時雇賃金					1,530,000		1,530,000
退職給付費用					234,000		234,000
福利厚生費					1,195,500		1,195,500
会議費					200,000		200,000
旅費交通費					500,000		500,000
通信運搬費					877,000		877,000
消耗什器備品費					424,000		424,000
消耗品費					420,000		420,000
印刷製本費					688,000		688,000
光熱水料費					394,000		394,000
賃借料					7,038,000		7,038,000
保険料					6,000		6,000
支払手数料					945,000		945,000
諸会費					343,000		343,000
諸謝金					1,093,000		1,093,000
租税公課					61,000		61,000
委託費					2,732,000		2,732,000
雑費					1,163,000		1,163,000
経常費用計	19,280,355	5,356,000	0	24,636,355	28,830,870	0	102,089,000
評価損益等調整前当期経常増減額	4,301,645	3,404,000	0	7,705,645	25,485,130	0	1,047,000
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	4,301,645	3,404,000	0	7,705,645	25,485,130	0	1,047,000
2. 経常外増減の部							
(1) 経常外収益							
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用							
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	-4,301,645	-3,404,000		-7,705,645	-24,438,130		0
税引前当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	1,047,000	0	1,047,000
法人税、住民税及び事業税					70,000		70,000
当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	977,000	0	977,000

【第3号議案】

令和2年度役員の内

日本ロボット学会定款第5章，役員選任規程および役員候補推薦規程に従い，下表右列の9名を令和2年新役員として推挙したい。

任期	令和2年度役員		
	平成30年3月～ 令和2年3月	平成31年3月～ 令和3年3月	令和2年3月～ 令和4年3月
理事		浅田 稔	
理事		村上弘記	
理事		松野文俊	
理事	矢野 寛	岡田 聡	植木美和
理事		細田祐司	
理事	有坂寿洋	蓮沼仁志	服部 誠
理事	菅原 淳	太田祐介	足立 勝
理事	山本晃生	永谷圭司	大川一也
理事	和田正義	武居直行	下田真吾
理事	辻 俊明	新妻実保子	島 圭介
理事	岩田浩康	山崎公俊	大野和則
理事	稲邑哲也	田中文英	ベンチャー ジェンチャン
理事		長井隆行	
監事	吉見 卓	澤 俊裕	松日楽信人